

＜マニフェスト、かくあるべき＞号より

1. マニフェスト、かくあるべき。
  - 1) 何故日本ではマニフェストが作られなかったのか？
  - 2) 与野党におけるマニフェストの意味
  - 3) 評価の仕組みを定着化させること
  - 4) 総理のたらいまわしを認めない

#### 1. マニフェスト、かくあるべき。

マニフェスト論議が盛んになった。マニフェストを仕掛けた私にはやっとここまで来たかとの観がある。日本の国政選挙でマニフェストが展開されたのは、2003年衆院総選挙で、民主党の選挙戦略として導入されて以来である。その原動力は当時の菅直人代表と私が室長を勤めていた役員室であった。

##### 1) 何故日本ではマニフェストが作られなかったのか？

これまで政権交代をかけた選挙が戦われなかったことと関係している。マニフェストは、「政権をこのように運営します」という具体的な宣言であるから、もともと政権運営の可能性が無い野党には、無意味なのである。

政権運営の可能性とは、最大野党が少なくとも衆議院の過半数以上の候補者を擁立することと言い換えることができる。すなわち、選挙結果で政権交代する可能性がほとんど存在しなかった。

一方、長期自民政権にとっては、政権交代の可能性が希薄であれば、以前の公約がどれだけ実施されたかが次の選挙の時に明らかになるマニフェストは、むしろ政権の持続にはマイナスになるのである。

従って与党も野党も、期日や数値目標の入りのマニフェストではなく、「あれをやります、これも実現します」と公約を列記するかたちのポジティブリストの方が都合が良かったのである。

##### 2) 与野党におけるマニフェストの意味

マニフェストの意味するところは、与党と野党とでは大いに異なる。与党にとっては「契約を継続したい」と宣言することである。そのために最も必要なことは、現行の契約が誠実に実行されたことを立証しなければならない。その上で微修整を加えて契約継続をプロポーザルするのである。

一方、野党は2005年マニフェストは国民との成約に至らなかった。それは内容に不備があったか、国民の理解を得ることに失敗したかである。となれば、前回の提案内容のどこを大々的に修正したか、分かり易く説明した上で、契約をお願いしなければならない。

民間契約の場合でも、一度受注した会社は、過去の実績や信頼度をアピールするはず。一方新規契約を狙う企業は、新たな技術や工法をアピールして、

前任契約者より優れている点を主張しなければならない。

従って与党にとっては2005年マニフェストの立証責任が第一なのである。一方野党は、新規契約者につきまとう不安を払拭させるための具体的説明が不可欠なのだ。

メディアでは、今回の与野党のマニフェストを比較する内容が専らだが、国民に向けて、この視点でのわかりやすい検証も是非お願いしたい。

##### 3) 評価の仕組みを定着化させること

先日、マニフェスト評価大会が各種団体の共催で開かれた由。この種の大会があるとは承知しなかったが、その提案の中でマニフェストを常時評価していく制度が必要だと言う主張は大切だ。いよいよ日本もマニフェスト選挙が本格化した。それは政権交代のリアリティが増したことと機を同じくしている。

また自民党マニフェストの評価の中で、「選挙を経ずして政権を交代したことを厳しく評価した」ことである。

2005年マニフェストは、小泉純一郎が国民と契約したマニフェストなのであって、安倍晋三も、福田康夫も、国民の信託を得た総理ではなかった。いわんや、麻生現総理においても。

後期高齢者医療の廃止とともに、郵政民営化の見直しを問うた2007年の参議院選挙で自民党が敗退したとき、契約者だった小泉さんは既に総理の座に不在で、かつ契約内容が国民に否定されたわけだから、少なくともその時点で新たな契約関係を構築しなければならなかった。つまり衆議院解散総選挙である。それをしなかったのは総理大臣のたらいまわしが出来るという甘えがあったからだろう。

##### 4) 総理のたらいまわしを認めない

自民党の多くの総理大臣は、総選挙を経ずに、このたらいまわしシステムによって誕生している。たらいまわしシステムが存在するのは、総選挙を実施しても野党が過半数を占めることは無いということが前提となっている。また過去50年間は実際その通りだったのだ。

この3年間に、たらいまわしで3人の総理大臣を誕生させたと言うことは、大臣ポストが約20あるから、延べ60人の大臣を就任させたことにもなる。大臣病の与党国会議員にとって、たらいまわしシステムは甘い誘惑であった。

しかし真のマニフェストが生かされるとしたら、契約者当人が総理を辞めた際には、直ちに新たなマニフェストを出して、総選挙を行わなければならない。マニフェストを出すと言うことは、政党としてもそれだけの覚悟が必要なのだ。

最近のマニフェストをめぐる自民党の混乱ぶりは、マニフェストに対する真の理解が不足していたからではなかったか。

総選挙は、国民の負託を改めて問うことである。総選挙でリセットを問いたい。(了)